

## チョコレートで熱帯雨林再生！ — “ブラジル・アマゾン・トメアス・モデル”



アグロフォレストリーチョコレート・ミルク (箱)

団塊世代のあこがれのお菓子と言えば、チョコレート色の包装紙の“明治の板チョコ”を思い浮かべる人も多いと思う。その明治が展開している社会貢献活動の1つが「チョコレートで応援します」活動である。

活動は「アフリカの難民の子どもたちの栄養改善プログラム (国連 UNHCR 協会)」、「闘病している子どもたちやご家族などに“笑い”を届ける活動 (NPO 日本ホスピタル・クラウン協会) =国内向け」、「子ども向け自然学校プログラム『きのこ・たけのこ里山学校』(日本環境教育フォーラム) =国内向け」、「アマゾンの森林再生 (アグロフォレストリー農法支援)」の4つ。本稿では、アマゾンの森林再生を中心に同社のグローバル社会貢献活動を紹介したい。

### アグロフォレストリー農法支援へ

チョコレートの原材料はカカオ豆とミルクと砂糖など。カカオ豆には、ガーナ産を中心としたベース豆と中南米産のフレーバー豆がある。5～6年前、同社研究所が調査をしていた時、アマゾンへ日本人が最初に入植した「トメアス」とい



トメアスのカカオ

う町の農協組織「CAMTA」の組合員が、自然と共生するアグロフォレストリー農法でカカオ豆を作っているという話を聞いた。一方、

「チョコレートで応援します」活動の一環として「地球環境に応援したい」という思いがマーケティング部門や CSR 部門にあり、テーマを模索していた。

アグロフォレストリー農法は、焼き畑農業などで荒廃した農地を再生するのに有用な農法。アマゾンの植生に応じた農産物や果実、カカオなどを植えることによって、アマゾンの森を再生しながら農産物ができるのである。その農法がトメアスで確立されており、世界的にも注目されているエリアだということが分かった。現地を訪問すると、カカオ豆についての知識も豊富で向上心も強い。入植以降 80 年余、今は 2 世、3 世の世代となっているが、彼らもやはり昔の日本人の美德を持ち、勤勉で向上心があって苦勞に耐える人たちであった。

### つながった3つの思い

チョコレートの製造には、カカオ豆を発酵させ乾燥させる工程があり、微妙な味を作り出すには発酵段階が大変重要だ。トメアスの人たちには向上心があり、「自分たちの手でいい豆を作り付加価値を上げたい」という強い気持ちがあった。彼らは、明治の細かい要望やアドバイス、品質管理にも応えてくれた。そして 2009 年春、トメアスのカカオ豆を輸入することを決めた。「おいしい豆を作りたいという思いと、おいしい豆を探したい、地球環境に貢献できる取り組みをしたいという思いがつながった」(同社菓子営業本部・菓子マーケティング部長 中村高士氏) ののである。

この活動は単なる寄付活動ではない。カカオ豆



カカオ豆を発酵させる  
(トメアス)



農園主との打合せ  
(トメアス)

を栽培してもらい明治が購入することでアマゾンの森が増え、経済活動としても回っていく。まさにサステナビリティにつながっているのである。また、海外で頑張っている日系人を応援することもできる、いわば「一石三鳥」の活動である。最近話題となりつつあるCSV (Creating Shared Value: 共有価値の創造)、社会にとっても企業にとってもプラスになるCSR活動としても注目され、日経新聞で取り上げられた。昨年は名古屋で「COP10」(生物多様性条約締結国会議)が開催された。地球環境と共存するという時代の趨勢すうせいの中で、アグロフォレストリー農法「ブラジル・アマゾン・トメアス」モデルは、今後さらに注目されるであろう。

2011年9月、箱タイプの「アグロフォレストリーチョコレート」を発売、3月発売の板タイプと合わせ、個人向けとファミリー向けがそろった。チョコレートはいろいろなカカオ豆を混合して作るが、このチョコレートはトメアス産だけを使ったシングルビーンズチョコ。有機農法ほうじゆんのカカオ豆でできた芳醇な味をぜひ賞味していただきたい。

## カカオ生産国とのパートナーシップ

もう1つのチョコレートに関する取り組みを紹介する。

チョコレートに欠かせないカカオ豆は、南北緯度20度以内の赤道近辺のエリアで作られる。そ

の代表的な生産国がガーナである。明治のチョコレートにもガーナ産が多く使用されている。

同社は、高品質のカカオ豆を安定的に手に入れるために、これまではできなかった地域指定購入を、生産地域の協力を得ながら実施している。そして一定金額を上乗せして購入することで、その地域の支援を行うという世界規模のNPOであるソース・トラスト (Source Trust) によるプロジェクトに参画している。

明治は、購入地域の一部であるガーナ西部のアセラワディ村を、同社社員が実際に訪問してカカオ苗木の植樹をしたり、子どもたちが描く「カカオ絵画コンテスト」を実施するなど現地との交流を深めており、双方の顔が見えるかたちでの活動を続けている。2009年に寄贈した井戸は、「遠くの小川に水を汲みに行かずに済むので助かっている」と村の人々に感謝されるなど、現地の生活向上にも貢献している。



寄贈された井戸を使う  
(ガーナ)



カカオの絵を描く  
子どもたち (ガーナ)

\*

明治の中心商品であるチョコレートを介してのCSR活動、事業に根ざした地道な活動はこれからも長く続いていくに違いない。

(本誌編集部 間島輝利) ■

※取材協力: (株)明治 菓子マーケティング部、CSR推進部、広報部

◆明治の社会貢献活動

<http://www.meiji.co.jp/corporate/activity/>